

クラス担任のための Career Guidance

2016 >> VOL.30

キャリアガイダンス 特別編集



ビジネスシーンでも不可欠！

トレーニングで上達させる「伝える力」

諸外国では常識の「言語技術」が、日本の教育では欠落している！

人にわかりやすく自分の意見を伝える文章力や、発表・議論する力を育む。そんなトレーニングとして、「言語技術」に注目してみました。

取材文／清水由佳（ライター・キャリアカウンセラー）

いち早く実践する森村学園では保護者からの評価が本格導入を後押し

普段の授業の感想やワークシートは書いているのに、いざ改まって志望理由書や自己推薦書となると、何を伝えたいのかわかりづらい文章を書いてくる生徒がけっこういる。そんな生徒の指導に頭を悩ませている先生は少なくないはず。なぜ、そんなことが起きてしまうのか。『大学生・社会人のための言語技術トレーニング』の著者、つくば言語技術教育研究所所長・三森ゆりかさんは、「日本では、世界の多くの国の母語教育で行われている『言語技術 (Language arts)』が抜けてしまっているためです」と語る。

三森さんの協力のもと、言語技術習得プログラムを2012年から学校のカリキュラムに取り入れていたのが、神奈川県私立中高一貫校、森村学園だ。初年度は中学1年生からスタートし、3年経った現在は中学生全員が対象。さらに、15年は希望者を中心に高校1年生にもカリキュラムが組み込まれている。

言語技術は、ギリシアで始まったレトリック（修辞学）を出発点とした弁論の技術などを恐らくは基礎にした母語教育のための体系を指し、論理的に対象を分析し、思考を組み立てて表現することを目指す。そのため幼児期から、情報の読み取り（読むこと）、観ること、聞くこと、思考（批判的、論理的、分析的、多角的、創造的思考など）、表現（話すこと、書くこと）などのスキルを、体系的プログラムに基づき、具体的に繰り返し指導する。

「それまで国語科の教員として、国語が苦手という生徒にも、こうすれば書けるようになる、読めるようになるという、効果的な学習方法を示すことができずずっと悩んでいました。探し求めていた答えがここにあり、目から鱗の思いでした」

「この授業の効果や重要性に最初の方で共感してくれたのが、実は保護者の方々でした。オープンスクール時に保護者の方々にも授業を体験していただいたのですが、これこそぜひやってもらいたい教育」と大好評でした。

「最初は、1年生5クラスのうち2クラスで三森先生が授業を行い、その授業を3名の国語科教員が見学。指導方法を覚え、他3クラスで実践。並行して、担当教員は、つくば言語技術教育研究所の教員向け研修（50時間）も受講しました。言語技術は、すべての授業が議論と対話中心で、教員は『なぜそう考えるの？』などのように、生徒が考えを深められるようなアプローチに徹し、最後は作文を書かせてスキルを定着させます。従来の授業とは大きく異なるため、最初に担当した先生たちは本当に大変でした」（林教頭）

森村学園で行われているカリキュラムの一例

問答ゲーム

Q あなたは花火を見るのが好きですか？
生徒同士で、その問いかけに「好き」「嫌い」を答えて、その理由を瞬間的に答えていく。パラグラフ構成にのっとり、そのやりとりと、文章化を行う。
【学習のねらい】世界に通用するパラグラフ構成（主題文＋展開文＋まとめ文）で意見を述べる訓練。

空間配列の説明

Q フランス共和国の国旗を、言葉だけで、相手が正確にイメージできるように説明してください。
グループで説明の方法を考え、パラグラフ構成にのっとり記述を行う。
【学習のねらい】伝えるべき大項目、小項目を整理し、さらに項目の説明順位を論理的に分析し、簡潔にして明快な説明文を組み立てる訓練。

再話

Q 先生がある物語（500字～2000字程度）を2度読みます。読み終わったら手元のメモと記憶をたよりに、物語を忠実に再生してください。
メモをもとに、物語を再度、文章化していく。
【学習のねらい】集中力を高めて話を聞き、重要な点をメモしながら情報の細部までを正確にとらえ、それを忠実に言語化する訓練。
このような訓練を、少しずつ難度を上げながら（例えば、国旗の説明をより複雑な星条旗にしていくなど）繰り返し学習していく。

森村学園の中3終了時のアンケート結果（195人）

1	「物語の構造」という視点で小説が読める	71%
2	テキスト内に根拠を求めて分析ができる	81%
3	絵の中から根拠を求めて分析ができる	84%
4	大→小の法則にしたがって描写・説明ができる	89%
5	要約のために情報を適切に取捨選択できる	76%
6	パラグラフの構成に従って文章が書ける	85%
7	パラグラフを発展させて小論文が書ける	65%
8	文章を書くことに抵抗を感じない	68%

※2015年3月調べ



つくば言語技術教育研究所 所長 三森ゆりかさん
上智大学外国語学部ドイツ語学科卒業後、総合商社勤務。自身の子ども時代ドイツでの経験や交渉に苦勞する日本の商社マンの姿などから、「言語技術」の重要性に気づく。1990年「つくば言語技術教室」（現：つくば言語技術教育研究所）を開設。現在は、同研究所の他、学校・大学・企業や、日本サッカー協会、日本オリンピック委員会などでも講師を務める。



『大学生・社会人のための言語技術トレーニング』大修館書店
言語技術のトレーニング内容が、わかりやすく解説されている。主に、「対話」「物語」「要約」「説明」「報告」「記録」からなる「スキルトレーニング」。「絵の分析」「テキストの分析と解釈・批判」から身につける「クリティカルリーディング」。「パラグラフ」や「小論文」の型をトレーニングする「作文技術」から構成されている。これらを、繰り返し、スパイラルのように積み重ねていくことが重要だと、三森所長は説く。

リウナビ進学 高校生の主体的な進路選択を応援する先生のための Career Guidance キャリアガイダンス 進路指導・キャリア教育の専門誌

【最新号】Vol.410 2015年12月発行

■特集 新しい時代に向けて これからの教師を探る

- どの大学、会社に入ったかではなく、いかに力強く社会で生きる生徒を育てるか 溝上慎一（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）
- 今こそ、若手・ベテランを問わず変わる時 宮下和己（和歌山県教育委員会教育長） 対談 岸田正幸（和歌山県立桐蔭中学・高校校長）

■連載

- アクティブラーニング型授業への挑戦 熊本北高校（熊本・県立）
- 地域課題解決型キャリア教育 遠野高校（岩手・県立）

『キャリアガイダンス』誌は全国の高校に贈呈しています（校長、教頭、副校長、進路指導主事先生宛に郵送）

バックナンバーの記事はすべてWEBサイトで閲覧いただけます

http://souken.shingakunet.com/career_g/